



2024年11月12日

Osaka Metro Group

2024年度（2025年3月期）第2四半期決算

1. 2024年度第2四半期（7-9月）連結損益計算書（総括）

第1四半期に続き、第2四半期も前年同期から増収増益を達成。

営業収益は、主に、鉄道事業および都市開発事業の増加により、76億円の増収。

営業利益は、万博に向けての費用が増加したものの、収益増並びに引き締まった経営施策の推進により、18億円の増益。

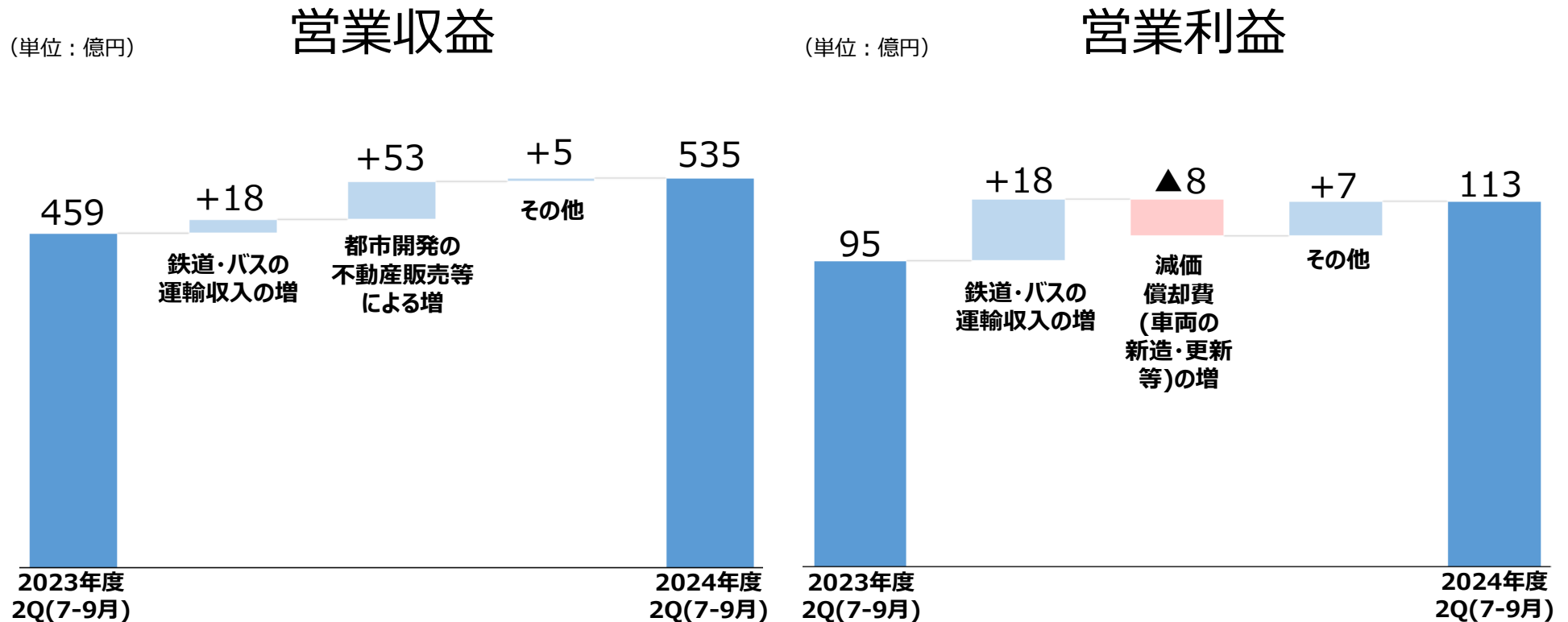
（単位：億円）

【参考】

	2024年度 2Q（7-9月）	対前年同期 増減	2024年度 2Q累計	対前年同期 増減
営業収益	535	+76（+16.5%）	1,019	+109（+12.0%）
営業費用	422	+58（+15.9%）	781	+68（+9.5%）
営業利益	113	+18（+18.7%）	239	+42（+21.3%）
営業外損益	▲5	▲4	▲2	▲5
経常利益	108	+14（+14.4%）	236	+37（+18.4%）
特別利益	1	+1	5	▲8
特別損失	1	+1	3	▲9
法人税等	34	+5（+17.2%）	74	+13（+21.1%）
親会社株主に帰属する 四半期純利益	73	+9（+14.0%）	162	+25（+18.7%）

2. 2024年度第2四半期（7-9月）営業収益・営業利益の増減要因

営業収益は、鉄道・バスの運輸収入および都市開発事業の不動産販売増が主な増収要因。
営業利益は、運輸収入増が主な増加要因、新型車両の減価償却費増が主な減少要因。



3. 2024年度第2四半期（7-9月）セグメント別の状況（総括）

営業収益は、交通事業および都市開発事業の前年度からの増加が大きい。
 営業利益は、交通事業セグメントのバス事業が運転士確保の費用増により減益。
 それ以外は、鉄道を始め、マーケティング・生活支援サービス事業、都市開発事業、広告事業の
 全てにおいて増収・増益を達成。

（単位：億円）

【参考】

	2024年度 2Q（7-9月）		対前年同期 増減			2024年度 2Q累計		対前年同期 増減	
	営業収益	営業利益	営業収益	営業利益		営業収益	営業利益	営業収益	営業利益
合計	535	113	+76（+16.5%）	+18（+18.7%）		1,019	239	+109（+12.0%）	+42（+21.3%）
交通事業	447	94	+20（+4.6%）	+4（+4.7%）		896	211	+49（+5.8%）	+26（+13.9%）
鉄道事業	419	95	+20（+5.1%）	+7（+7.9%）		839	211	+50（+6.3%）	+30（+16.6%）
バス事業	36	▲0	+2（+4.8%）	▲3（-）		71	0	+3（+4.4%）	▲4（▲91.8%）
セグメント内取引消去	▲8	（-）	▲2（-）	（-）（-）		▲14	（-）	▲4（-）	（-）（-）
マーケティング・ 生活支援サービス事業	32	3	+2（+7.3%）	+0（+21.7%）		61	6	+3（+5.4%）	+1（+25.1%）
都市開発事業	59	14	+53（+925.7%）	+13（-）		68	18	+57（+489.4%）	+15（+486.5%）
広告事業	9	2	+1（+8.2%）	+0（+14.9%）		19	3	+2（+12.2%）	+1（+22.5%）
その他	▲12	0	+0（-）	▲0（▲65.8%）		▲24	0	▲1（-）	▲1（▲74.3%）

※「その他」には、グループ内受託事業およびセグメント間内部取引消去を含みます

4-(1). 交通事業の状況

営業収益は、鉄道・バスの乗車人員の堅調な増加、沿線観光資源の発掘・情報発信や各種キャンペーンなどの増収施策により、20億円の増収。

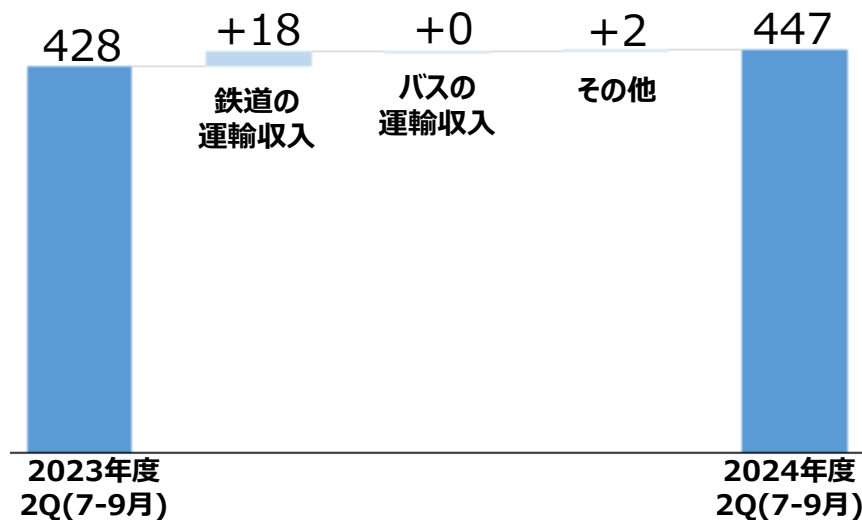
営業利益は、車両新造・更新等による減価償却費の増加やバス運転士確保による人件費の増加等があったものの、営業収益の増加により、4億円の増益。

(単位：億円)

	2024年度2Q（7-9月）	対前年同期増減		【参考】 2024年度2Q累計	対前年同期増減	
営業収益	447	+20	(+4.6%)	896	+49	(+5.8%)
営業利益	94	+4	(+4.7%)	211	+26	(+13.9%)

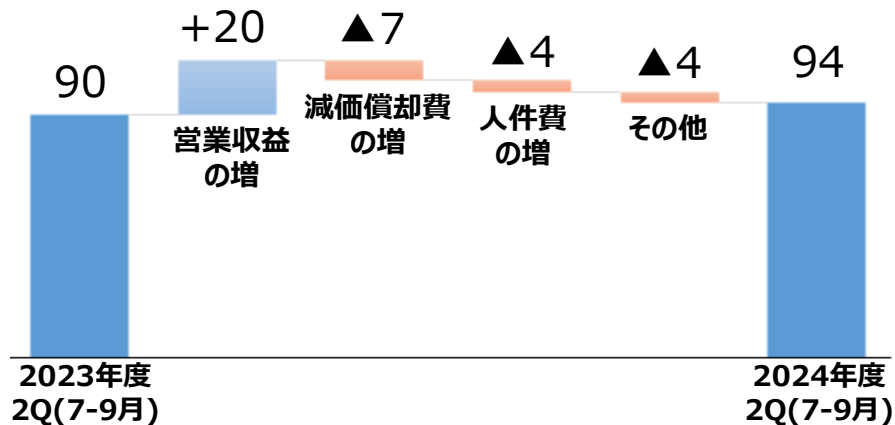
(単位：億円)

営業収益



(単位：億円)

営業利益



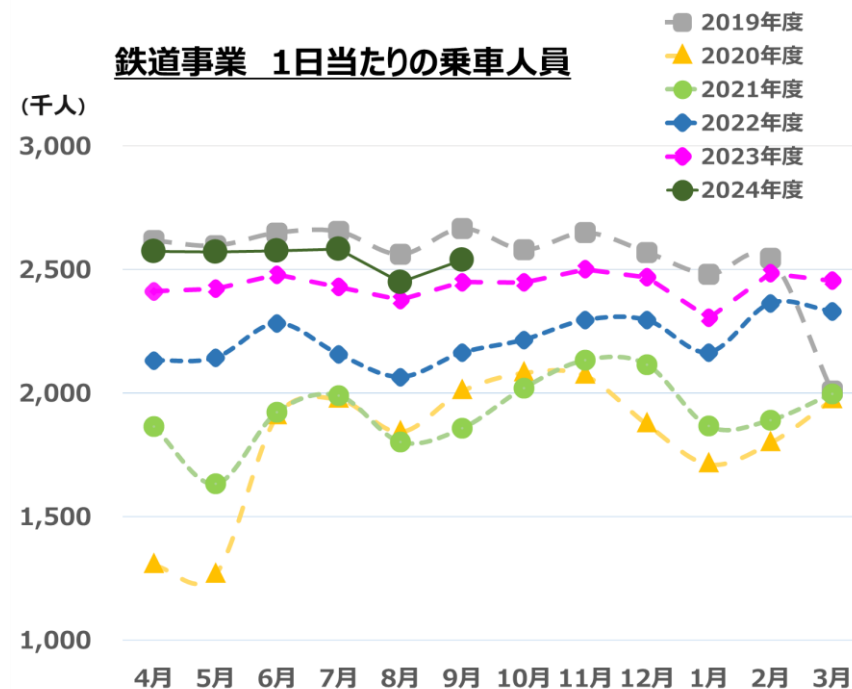
4-(1). 交通事業（鉄道）の乗車人員と運輸収入

前年同期に比べ、乗車人員は10百万人（+4.3%）増加。
 運輸収入は、乗車人員の増加に伴い、18億円（+4.7%）増加。
 6ヶ月累計でも同様の傾向であり、乗車人員は22百万人増、運輸収入は42億円増。

（単位：千人、億円）

【参考】

		2024年度 2Q（7-9月）	対前年同期 増減	2024年度 2Q累計	対前年同期 増減
乗車 人員	合計	232,120	+9,624 (+4.3%)	466,319	+21,973 (+4.9%)
	定期	117,386	+4,666 (+4.1%)	235,853	+8,212 (+3.6%)
	定期券	84,358	+4,940 (+6.2%)	168,448	+8,840 (+5.5%)
	マイスタイル	33,028	▲275 (▲0.8%)	67,405	▲628 (▲0.9%)
	定期外	114,734	+4,958 (+4.5%)	230,466	+13,760 (+6.3%)
運輸 収入	合計	394	+18 (+4.7%)	791	+42 (+5.7%)
	定期	162	+6 (+3.8%)	324	+12 (+3.9%)
	定期券	104	+7 (+6.8%)	208	+13 (+6.8%)
	マイスタイル	57	▲1 (▲1.3%)	116	▲1 (▲1.0%)
	定期外	233	+12 (+5.3%)	468	+30 (+6.9%)



4-(1). 交通事業の主な取り組み

各種イベントやキャンペーンなどの増収に向けた取り組みやお客さまサービスの向上の取り組みを実施。将来の最適な移動サービス体制確立に向け、新たに、空飛ぶクルマやタクシー事業への取り組みを開始。

増収に向けた取り組み

<タイアップ企画の実施>

沿線情報誌「Metrono」の発行など、国内や海外インバウンドへ、沿線情報の発信を強化。人気キャラクターなどとタイアップし、沿線を回遊して楽しんでいただくデジタルスタンプラリーを実施。

<オンデマンドバス キャンペーンの実施>

7月1日から8月31日の期間、e METROアプリ利用者限定で、一定の条件を満たしたお客さまにOsaka Pointを進呈。

<大阪シティバス キーワードラリーイベントの実施>

大阪市内在住・在学の小学生が保護者同伴の場合に無料でご利用いただける「おでかけKID'S PASS」でバスに乗って大阪市内にある歴史スポットを巡るキーワードラリーを実施。

新しい取り組み

<空飛ぶクルマ>

空飛ぶクルマの社会実装を目的に、株式会社SkyDriveと業務提携、8月23日に同社への出資を実行。

<OMタクシー>

ナショナルタクシー株式会社の株式を取得し、OMタクシー株式会社に社名変更。お客さまの移動ニーズに応じた最適な移動手段を提供するべく9月30日より運行を開始。



お客さまサービスの向上

<AI見守りシステムの導入>

白杖または車いすご利用のお客さまに早期に気づき、必要なサポートや見守りに役立てるためのAI見守りシステムをドーム前千代崎駅で供用開始。



<自動精算機の更新>

自動精算機を更新し、スマホICカードへの対応及び画面拡大により操作性を向上。(118台更新・昨年度177台更新済みで全駅更新完了)



4-(1). 交通事業における万博への主な取り組み

2025年に開催される大阪・関西万博の成功に向けて、輸送能力増強の取り組みと共に安全・安心の取り組みを着実に推進。

輸送能力増強の取り組み

<新型車両>

大阪・関西万博にお越しの多くのお客さまの乗車に対応できるよう、中央線新型車両(400系)を3列車導入。



<夢洲延伸工事>

開業日を2025年1月19日に決定。
駅構内の仕上げ工事や各種検査、習熟運転を実施。

<自動運転EVバス>

大阪・関西万博において、来場者輸送を担う自動運転EVバスの発表式典を7月23日に開催。
また、舞洲～夢洲間で自動運転の試乗会も実施。



安全・安心の取り組み

<可動式ホーム柵の設置>

鉄道駅バリアフリー料金を活用して、お客さまのホームからの転落、列車との接触事故を防止すべく中央線 長田駅ほか5駅で供用開始。これにより、中央線全駅設置完了。
(2024年度末迄に谷町線5駅と四つ橋線全駅に設置予定)



<中央線子ども列車運行>

多くの子どもたちを安全・安心に万博会場まで輸送するため、中央線において子ども専用及び優先列車の運行を決定。

<訓練の実施>

森ノ宮駅で大阪880万人訓練に合わせて南海トラフ地震発生を想定した訓練を大阪府と共同で実施。また、なんば駅で有事発生を想定し、警察・消防と連携した近鉄との合同訓練を実施。



4-(2). マーケティング・生活支援サービス事業の状況と主な取組み

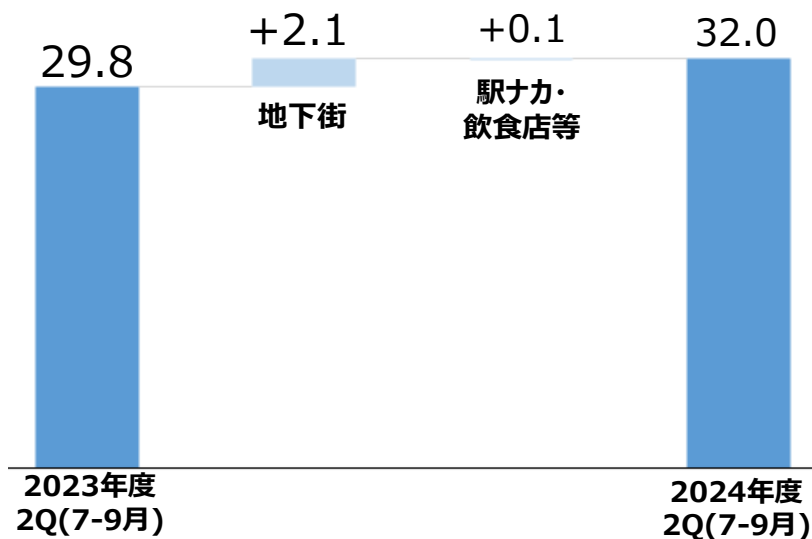
地下街の賃貸料収入の増加や駅ナカ・駅ソトの直営店舗開業による増収により、全体として増益。駅ソト事業では、カフェレストランを2店舗新規に開業し、生活支援サービス事業では、子育て支援事業として習いごとつき学童保育「えすこーとOsaka Metro都島駅前校」を開校。

(単位：億円)

	2024年度2Q（7-9月）	対前年同期増減	【参考】	2024年度2Q累計	対前年同期増減
営業収益	32.0	+2.2 (+7.3%)		61.0	+3.1 (+5.4%)
営業利益	2.7	+0.5 (+21.7%)		5.9	+1.2 (+25.1%)

(単位：億円)

営業収益



駅ソト

<カフェレストランの営業開始>

関西を代表するフレンチの匠であるシェフ唐渡が監修したカフェレストラン<メトロカフェ カラト>の1号店として中津店を8月8日に、2号店心斎橋店を9月19日にそれぞれ開業。



生活支援サービス

<習いごとつき学童保育「えすこーとOsaka Metro 都島駅前校」を7月に開校>

Osaka Metro 初の子育て支援事業として本校を開校し、子供の成長の糧となる多様な体験や学習機会を提供。



4-(3). 都市開発事業の状況と主な取組み

メトライズタワー大阪上本町の販売に加え、商業施設の開業や前年度下期に竣工した新規物件による賃料収入の増加などにより、増収増益。
新築賃貸マンションや新築分譲マンション、新たな商業施設の開発を継続して推進。

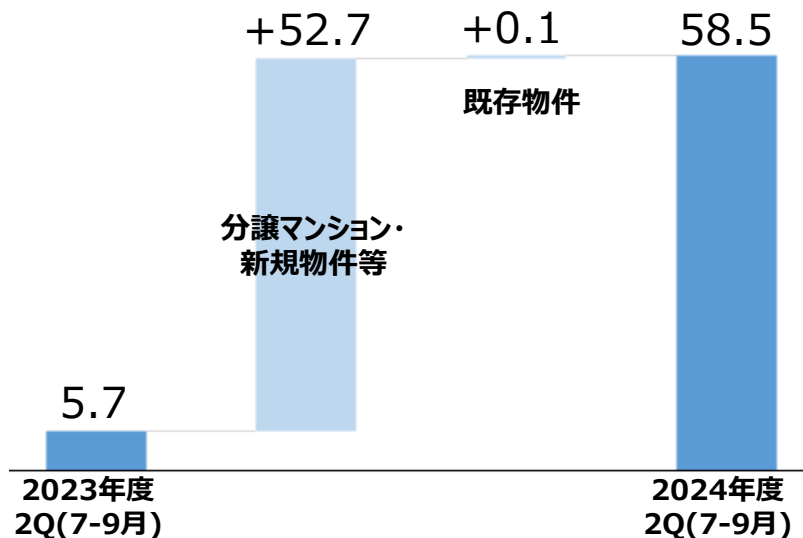
(単位：億円)

【参考】

	2024年度2Q（7-9月）	対前年同期増減	2024年度2Q累計	対前年同期増減
営業収益	58.5	+52.8（+925.7%）	68.2	+56.6（+489.4%）
営業利益	14.5	+13.2（-）	18.1	+15.0（+486.5%）

(単位：億円)

営業収益



分譲マンション

<メトライズタワー大阪上本町>

「メトライズタワー大阪上本町」の全135戸について、2024年7月に引き渡し完了。



商業施設

<METRO TERRACE UEHOMMACHI>

メトライズタワー大阪上本町の1階～3階に商業施設を2024年8月グランドオープン。プラティススタジオ・理容室・皮膚科・歯科・耳鼻科の5つのテナントが開業。



4-(4). 広告事業の状況と主な取組み

新規媒体の設置や積極的な販売活動に取り組んだことにより、増収増益。
万博の開催に合わせた新規メディアの開発や交通広告の価値向上に向けた取組みを実施。
新規事業の「Osaka JOINER」により、インバウンド需要の獲得に貢献。

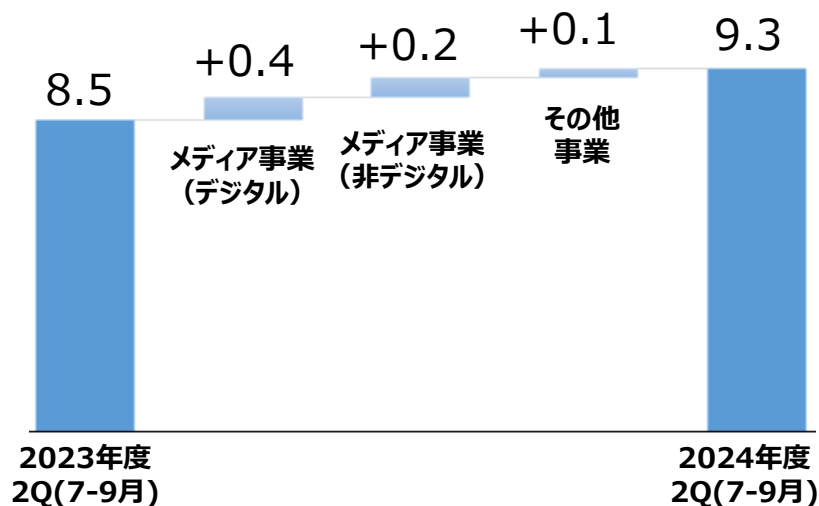
(単位：億円)

【参考】

	2024年度 2Q(7-9月)	対前年同期増減	2024年度 2Q累計	対前年同期増減
営業収益	9.3	+0.7 (+8.2%)	18.6	+2.0 (+12.2%)
営業利益	1.5	+0.2 (+14.9%)	3.0	+0.6 (+22.5%)

(単位：億円)

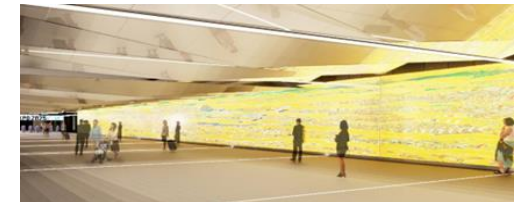
営業収益



メディア事業

＜夢洲LEDビジョン※＞

万博の開催に向けた
限定商品を多数開発し、
7月に「大阪・関西万博
特別商品説明会」を開催。



※縦3m×横55m音声ありの
インパクトメディアを設置予定

新規事業

インバウンドとローカルをつなぐ、
ガイドサービス「Osaka JOINER」により、
インバウンド需要の獲得に貢献。



5. 連結貸借対照表、連結キャッシュ・フロー計算書

連結貸借対照表 : 投資は、可動式ホーム柵の設置等の安全投資を中心に、270億円実施。有利子負債は、投資額の増加により、57億円の増加。

連結キャッシュ・フロー計算書(2Q累計) : 営業CFは、税引前純利益の増加等により増加。投資CFは、上記設備投資等に加え、3月計上の投資の支払により、170億円の支出増。フリーCFは、4億円のマイナス。

(単位：億円)

(単位：億円)

	2024年度 2Q末	2023年度末	増減	主な増減要因
資産	9,936	9,916	+21	
流動資産	544	598	▲54	現金及び預金 ▲16
固定資産	9,392	9,318	+75	投資 +270 減価償却費 ▲239
負債	4,010	4,108	▲98	
流動負債	2,002	2,363	▲360	コマーシャルペーパー ▲190 未払金 ▲277
固定負債	2,008	1,745	+262	長期借入金 +250
純資産	5,927	5,807	+119	
現金及び 現金同等物	205	221	▲16	
有利子負債	3,152	3,094	+57	長期借入金 +250 コマーシャルペーパー ▲190
ネット有利子負債	2,947	2,874	+73	
自己資本	5,855	5,739	+117	

	2024年度 2Q累計	2023年度 2Q累計	増減
営業活動による キャッシュ・フロー	421	339	+82
投資活動による キャッシュ・フロー	▲425	▲255	▲170
(フリーキャッシュ・フロー)	▲4	84	▲88
財務活動による キャッシュ・フロー	▲12	▲330	+318
現金及び現金 同等物の増減額	▲16	▲246	+230
現金及び現金 同等物の期末残高	205	258	▲53

(参考) 2024年度 通期予想について

業績予想は、2024年5月14日発表の事業計画から変更なし。

(単位：億円)

	2024年度	2023年度	
	予想（事業計画）	実績	増減
営業収益	2,130	1,842	+288
営業費用	1,780	1,471	+309
営業利益	350	371	▲21
営業外損益	0	5	▲5
経常利益	350	376	▲26
特別損益	24	24	▲1
法人税等	114	123	▲8
親会社株主に帰属する 当期純利益	257	274	▲17



**Osaka Metro
Group**